

平成 16 年 3 月 12 日
株式会社 新生銀行
(コード番号: 8303)

台湾交通銀行とのアドバイザー業務提携について ～ ITを活用した業務プロセスの抜本的改革をサポート ～

新生銀行は、100%出資子会社である新生インフォメーション・テクノロジー株式会社(以下「SIT」という。)とともに、台湾の金融持株会社メガ フィナンシャル ホールディング傘下の交通銀行股份有限公司(本社:台北市、会長:鄭深池董事長 以下「交通銀行」という。)との間で、交通銀行のITシステムと業務プロセス改革に関し、アドバイザー業務提携を行うことで合意し、本日、当行、SITおよび交通銀行は、「IT、業務プロセス改革に関するアドバイザー契約」の締結を行いました。

交通銀行は、現在のITシステムや事務処理改革のため、台湾内外の先進事例を検討していたところ、当行の銀行経営およびIT戦略に注目し、双方による調査・検討を経て今回の提携にいたったものです。

当行は、平成12年3月に、新銀行としてスタートして以来、先進的なIT技術を活用して、お客さまのニーズの変化に迅速・柔軟に対応するシステムを低コストで構築するとともに、業務プロセスの抜本的な改革を通じて、経営の合理化・効率化に取り組んでまいりました。こうした取り組みを通じて培った経験・ノウハウを活かし、交通銀行が予定しているITシステムの効率化、業務プロセスの改革をサポートするものです。

提携の概要は以下のとおりです。

1. 当行およびSITが、交通銀行に対して以下のアドバイザー業務を提供
 - ① ITシステム、業務プロセスの抜本的改革にかかる戦略的アドバイス
 - ② 改革を遂行するために必要となる外部業者の選定、推薦
 - ③ 改革のために必要なサポート
2. 本件提携にかかる意見調整・遂行のため、SITと交通銀行の双方の経営陣から構成されるステアリング・コミッティーを設置
3. 契約期間は、平成16年4月1日から2年間

交通銀行では、この提携により従来主力としてきた法人向け業務の競争力を高めるとともに、個人金融部門も拡大していく方向です。

当行グループでは、今後もITの有効活用による業務改善を検討する内外の企業に対して、同様のアドバイザー業務を積極的に展開していきたいと考えています。

【新生インフォメーション・テクノロジー株式会社(SIT)の概要】

当行100%出資の子会社として、当行および当行グループ会社へのシステムの新規開発・導入、インフラ設計・導入および運用・保守を主力業務としています。また、卓越した先進ITテクノロジーをてこにグループ外の企業に対するシステムサポートなどにも取り組んでいます。

(1983年8月設立、資本金100百万円、本社：東京都品川区、代表取締役社長：髙村治
2003/3期売上高2,194百万円、2003/3末従業員数212名)

【交通銀行股份有限公司(交通銀行)の概要】

メガフィナンシャルホールディングの子会社のひとつである交通銀行は、台湾の主要商業銀行のトップに位置します。同行の大企業向け融資残高および株式投資額は、台湾の商業銀行の中で最大規模となっています。交通銀行は、営業規模を一層拡大するために、融資、投資、外国為替、およびコンシューマーバンキングという4つのコアビジネスを展開しています。

(1907年設立、資本金27,148百万台湾ドル、2002/12末総資産589,837百万台湾ドル、従業員数1,319名)

【メガフィナンシャルホールディングの概要】

メガフィナンシャルホールディングは、台湾の金融セクターをリードする会社で、あらゆる種類の総合金融サービスを提供しています。傘下に交通銀行、ICBC(The International Commercial Bank of China)など、6社を有しています。

(2002年2月設立、資本金110,488百万台湾ドル、2002/12末総資産1,649,624百万台湾ドル)

※1台湾ドルは約3.3円(平成16年3月12日現在)

以 上